

岡病防第1号  
令和7年4月4日

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について  
病害虫発生予報第1号を下記のとおり発表したの送付します。

令和7年度病害虫発生予報第1号

令和7年4月4日  
岡山県

予報概評

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	作物名	病害虫名	発生時期	発生量
麦類	赤かび病	並	並	タマネギ	べと病	—	やや少
モモ	灰星病 ウツロイガムシ	やや早 並	並 —	イチゴ	ハダニ類	—	やや多
イチゴ トマト ナス	灰色かび病	—	やや少				

1 普通作物

(麦類)

(1) 赤かび病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 麦の生育は、概ね平年並で推移している。

イ. 4月3日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや助長する条件である。

## 防除上の参考事項

- ア. 本病の第一次伝染源である子とう殻の形成が盛んになるのは、日平均気温が 13℃以上で降雨の直後である。子とう胞子の飛散が盛んになるのは、日最高気温が 15℃以上でかつ、日最低気温 10℃以上、湿度 80%以上または降雨直後である。この条件からみると岡山市のアメダス気象観測値では、子とう殻形成好適日および子とう胞子飛散好適日は 2月中旬から見られた。
- イ. 赤かび病は出穂期以降の気温が高く、湿度が高いまたは降水量が多いと発病が助長される。
- ウ. 気温が高く推移した場合には、出穂期が前進化するため防除時期を逸しないよう注意する。
- エ. 国内産麦類の検査規格では、赤かび病による被害粒が 10,000 粒中 5 粒以上混入すると「規格外」となる。
- オ. 令和 6 年度植物防疫情報第 12 号（令和 7 年 3 月 21 日発表）「麦類赤かび病の防除を徹底しましょう！」参照。

## 2 果 樹

(モ モ)

### (1) 灰星病（花腐れ、芽枯れ、枝病斑）

予報内容

発生時期        **やや早**

発生量        並

予報の根拠

- ア. モモの開花時期は、平年よりやや早いと予測される。
- イ. 4月3日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

### (2) ウメシロカイガラムシ

予報内容

発生時期        並

予報の根拠

- ア. 3月6半旬までの農業研究所内の気温を用いた予測式によると、幼虫ふ化最盛日（防除適期）は4月6半旬で平年並（4月6半旬）と予測される。

## 3 野 菜

### (1) イチゴ、トマト、ナスの灰色かび病

予報内容

発生量        やや少

予報の根拠

- ア. 4月1日の巡回調査によると、ナス、トマト及びイチゴのいずれの調査ほ場とも発生を認めず、発生ほ場率は、いずれも平年（ナス：4.0%、トマト：35.8%、イチゴ

: 21.8%) より低かった。

イ. 4月3日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

## (2) タマネギベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月1日の巡回調査によると、いずれのほ場とも発生は認められず、発生ほ場率は平年(48.3%)より低かった。

イ. 4月3日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 気温15℃前後で雨が多いと多発生しやすい。

## (3) イチゴのハダニ類

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 4月1日の巡回調査によると、発生ほ場率は55.6%で平年(33.8%)よりやや高かった。

イ. 4月3日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発生を助長する条件である。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、

<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

